



**ふわっとしたDXを、
現実に動く計画へ。**

中小企業向け・辛口DX設計AI



「DXを進めたい」
「業務を効率化したい」
「AIやSaaSを使いたい」



**実際には多くの
中小企業で、
DXは途中で
止まります。**

DX失敗のじょうご



範囲・予算

やる範囲が広すぎる。
予算に対して構想が大きすぎる。



現場運用

現場の運用が考えられていない。
誰が運用するのかが決まっていない。



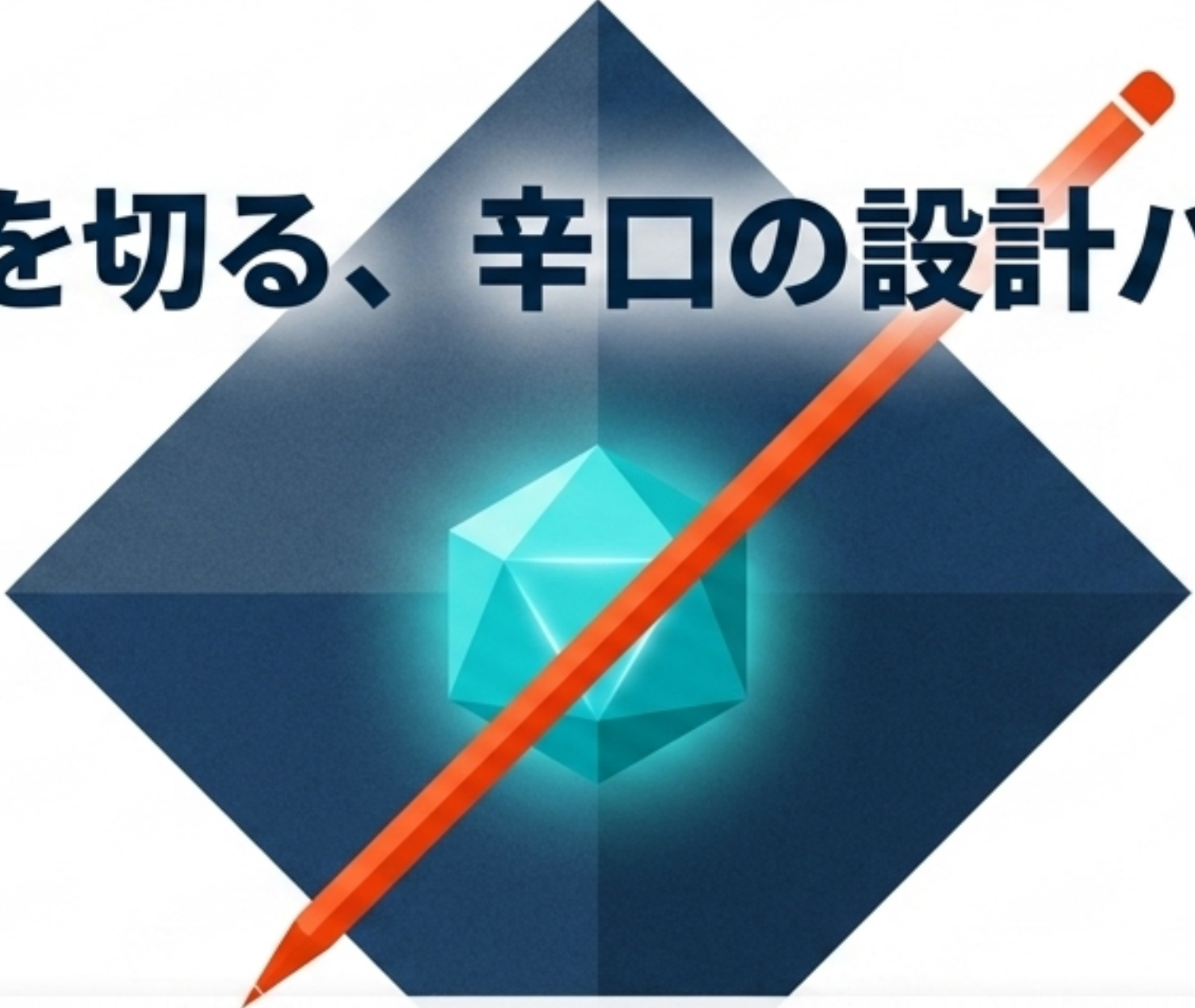
手段の過信

SaaSで済む話をわざわざ自作。SaaSでは足りない業務まで無理にツールで済ませようとする。

一番危ない進め方

「便利そうだから入れる」「全部まとめて変える」「ベンダーに任せる」

甘いDX案を切る、辛口の設計パートナー。



このGPTは、DXの話を「いいですね」で終わらせません。単なる相談AIではなく、中小企業が限られた予算・人員・時間の中で何から始めるべきかを整理する、実務型AIです。

[DX構想]

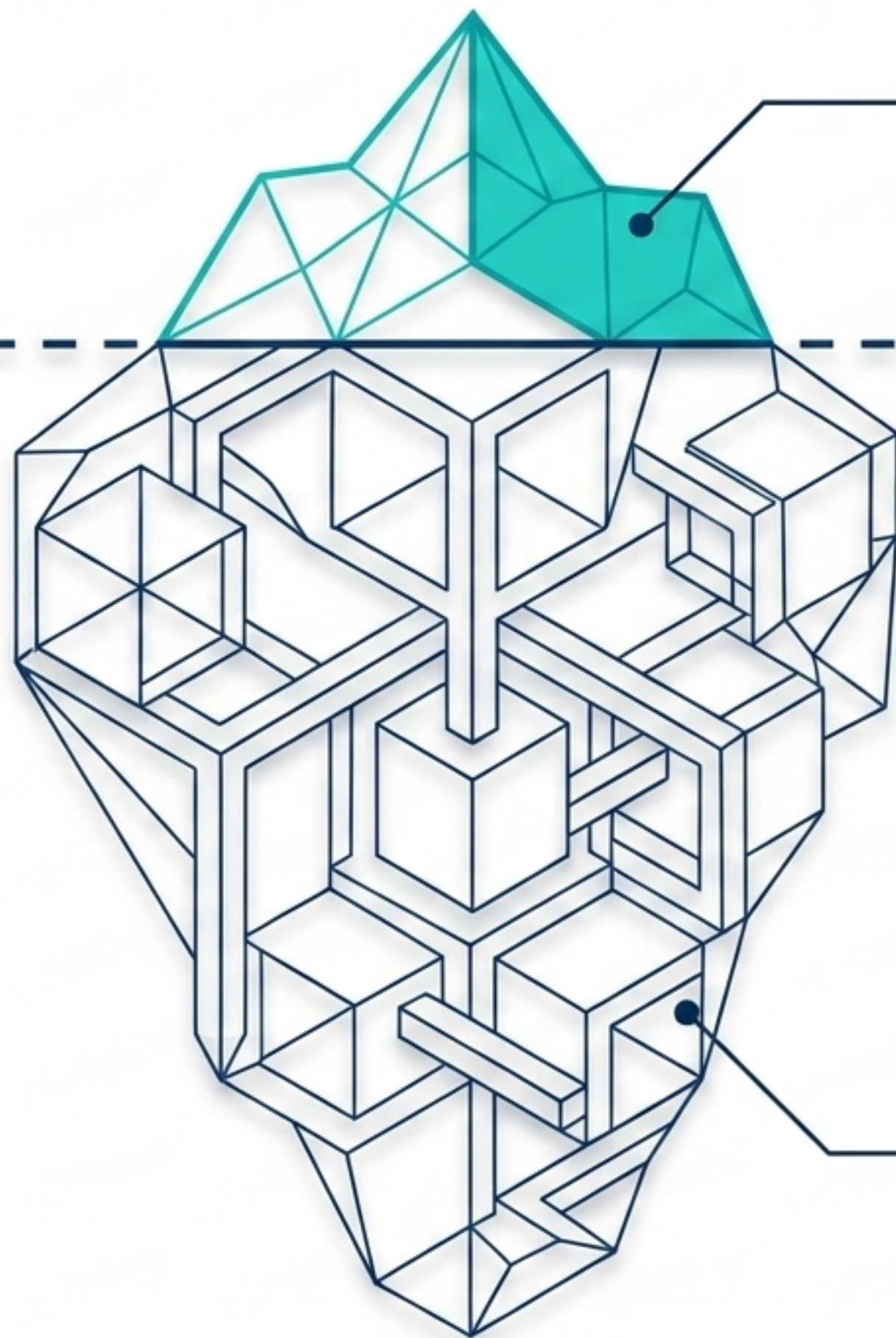
[業務整理]

[SaaS比較]

[概算見積]

[優先順位づけ]

「ツールを入れること」



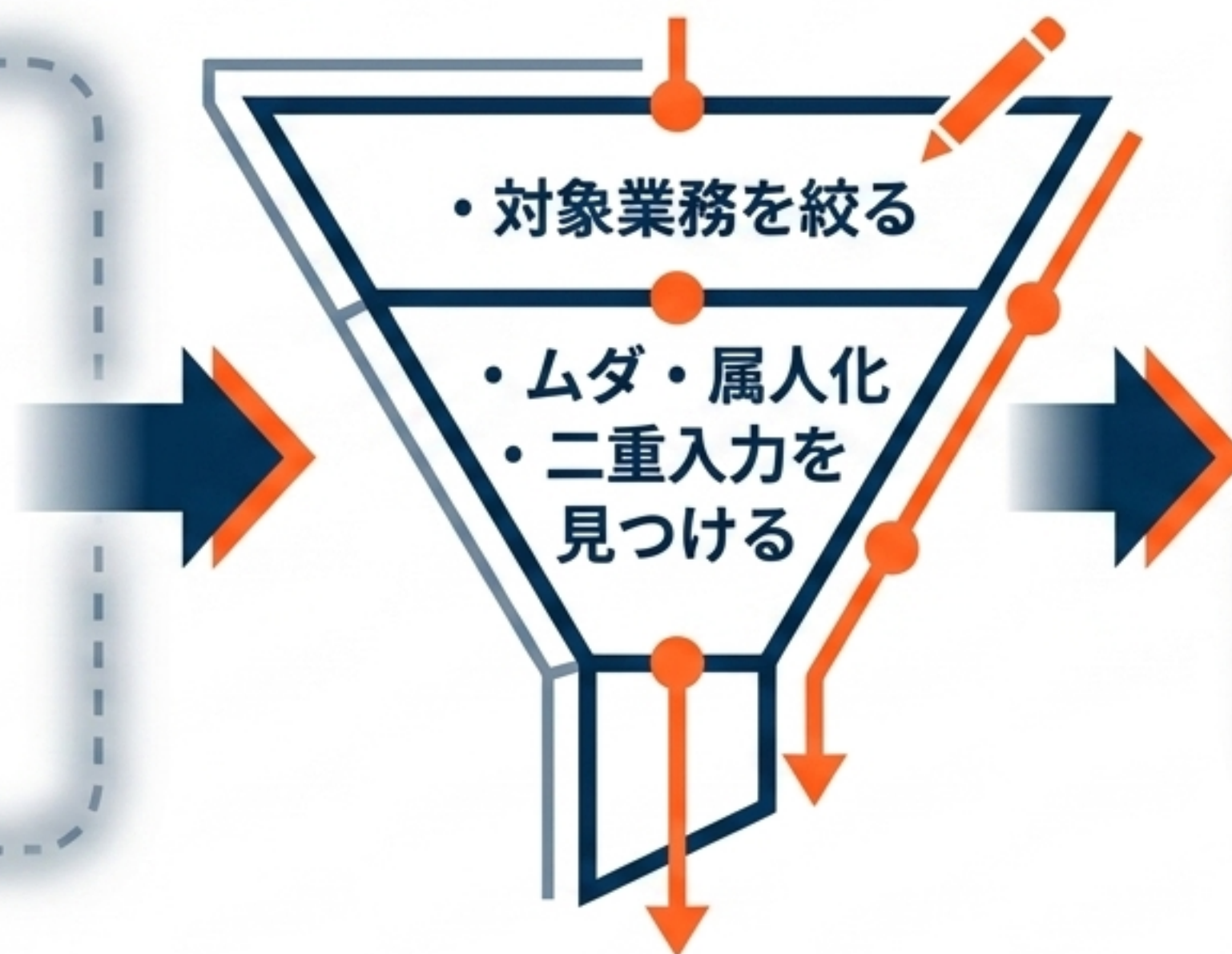
「AIを使えば何でもできます」とは言いません。
「そこはまず業務ルールを決めるべきです」と現実的に判断します。

「業務のムダを減らし、判断を速くし、現場が楽になる状態を作ること」

ふわっとした相談

- 「Excelを減らしたい」
- 「紙の書類をなくしたい」

現状業務の整理



現実動く計画

• 「まず何をやるか」

• 「何をやらないか」

× 甘い前提

辛口の指摘と代案

「予算100万円で全社システムを刷新したい」



「その予算では範囲が大きすぎます。まず1部門、1業務に絞りましょう。」

「とりあえず最新のツールを導入しよう」



「運用担当がいないので失敗率が高いです。現場で続く無理のない改善を。」

「ベンダーに任せれば何とかなるだろう」



「ベンダー任せ前提は危険です。まず自社で判断軸を持ちましょう。」





分析サマリー

-  **初期導入費**
一部に集中投資
-  **月額運用費**
SaaSで最適化
-  **社内負荷**
運用担当の確保
-  **削ってよい要素 / 削ると危険な要素**
コア業務は投資、他はSaaS

「全部やる」ではなく、段階を分けてどこから始めるべきかを整理します。

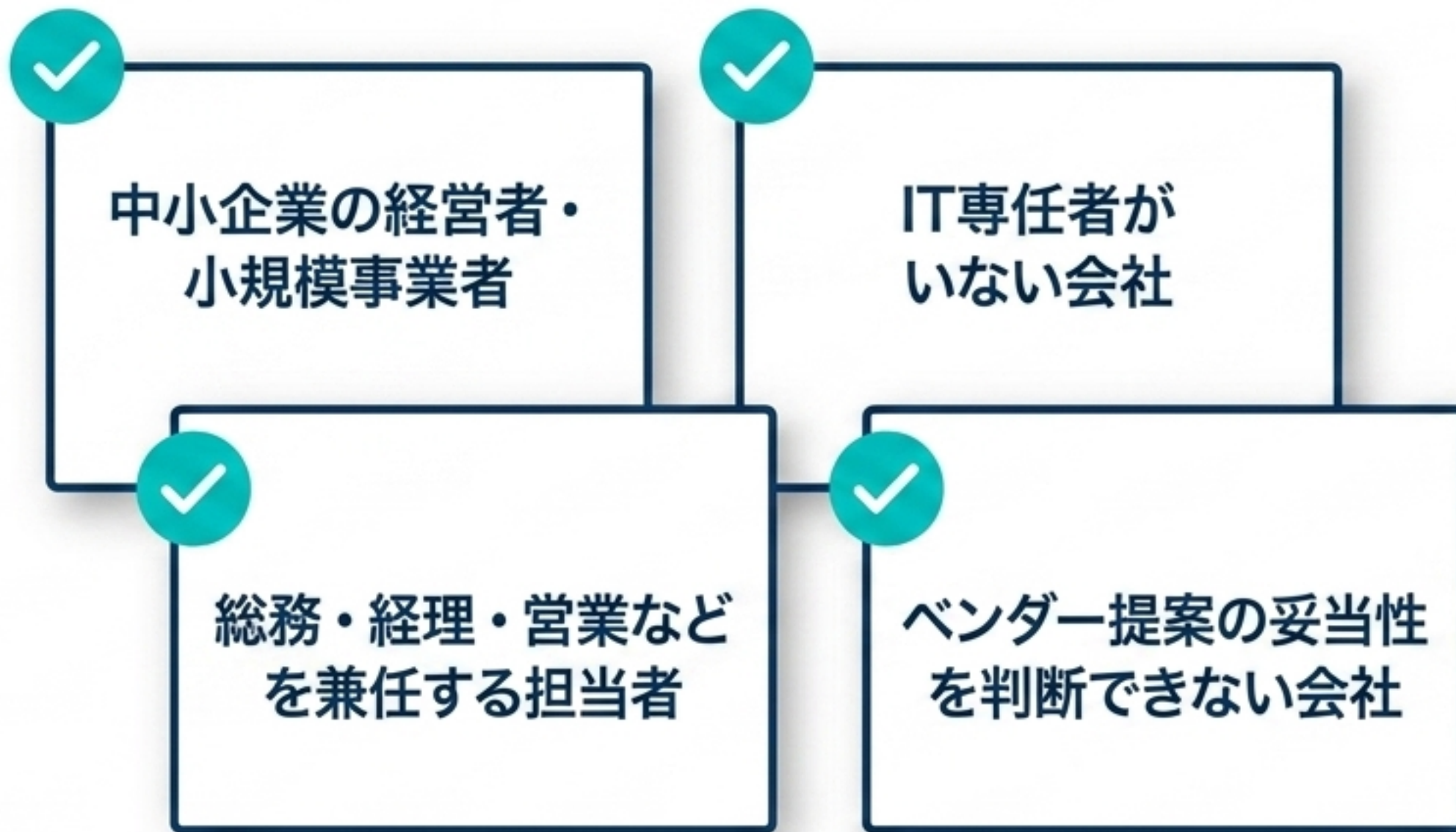
提案書

「手段先行になっ
ていないか？」

「課題が浅くないか？」

「ベンダー丸投げになっていないか？」

既存のDXレポート、社内メモ、ベンダー提案を辛口レビュー。
「この提案、本当に進めて大丈夫か？」を確認するチェック役になります。



~~大企業向けの大規模DXではありません~~

~~現場で使える形で、小さく始めるための支援です~~



1. DXレポートを進化

既存の構想メモや提案書を辛口でレビューし、実行しやすいレポートへ修正。



2. DXを一から作る

何も決まっていない状態から、1業務・1部門に絞った現実的な改善案を策定。



3. DX見積・優先順位を出す

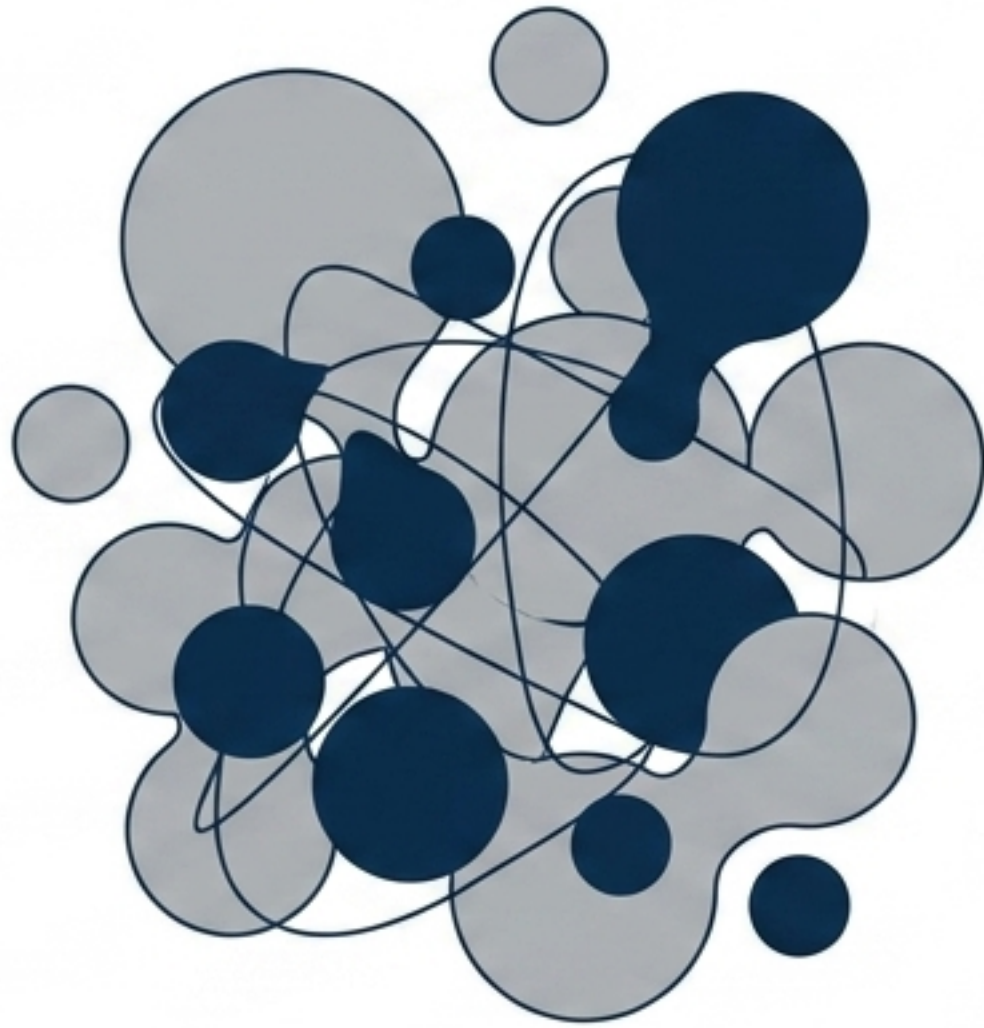
既存案に対し、概算費用と「今やること」「やらないこと」の順番を整理。



4. 既存SaaSを調査して紹介

対象業務に合うSaaSの強み・弱み・費用感を比較し、自作すべきか判断。

ベンダー任せ・勢い任せ

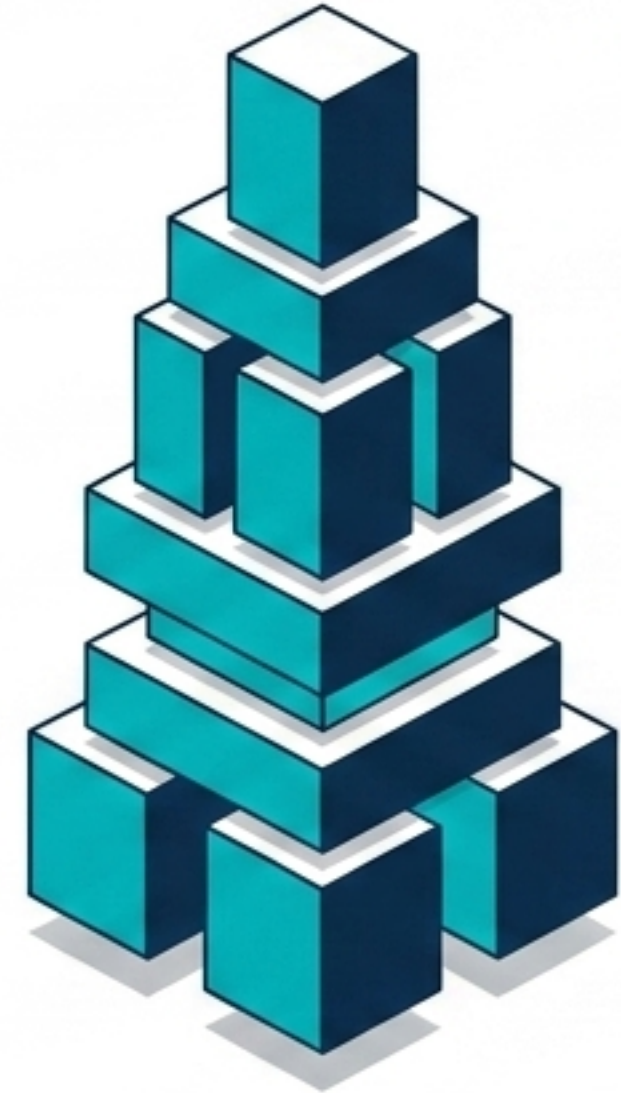


ツール導入先行、高コスト、
定着せず。

辛口DX設計AIによる
「冷静な整理」



自社の判断軸を持つ



業務整理先行、コスト最適化、
現場で回る小さな実行案。

何をやるかより、何をやらないかを決めるDX。

DXは、勢いで始めると失敗します。

- ツールを入れる前に、まず業務を整理する。
- 自作する前に、SaaSで済むかを見る。
- ベンダーに任せる前に、自社の判断軸を持つ。

甘い構想を削り、実行できる計画に変える。

「中小企業向け・辛口DX設計」を、あなたの会社の最初の整理役としてお使いください。